

このパネルには、まちの教室の思いと当時の仲間の写真があります。

「港北ニュータウン まちの教室」は、新しいまちの”いい仲間たち”をネットワークして、まちの面白さをキーワードに気負わずに、楽しくロマンをもって、私たちのまちに根付いた、私たちの文化を作っていくことを目標としました。

9月20日（土）『劇団風の子』の『トランク劇場』上演に向けてスタッフは動き出しました。

会場は、学校開放を利用して荏田南小学校の体育館を使えることになりました。チケットの予約は自治会や町内会の回覧を使わせていただけることになりました。

スタッフはボランティアで、チラシやポスター、チケットを作り、いろいろな準備を学生時代の文化祭みたいだねと言いながら楽しく行いました。当時はやっとワープロが普及し始めた頃です。切り張りに次ぐ切り張りの作業、よくやったなと思います。

そして、当日は体育館にそれはそれはたくさん子どもたちがお父さんやお母さんと一緒に来てくれました。300名の定員に対し、何と600名が予約してくださったのです。急遽、3時と6時の2回公演をすることになりました。地域住民の方々の大きな反響に驚きました。子どもたちの顔が輝いていますね。

その時から、6月には劇団を呼んでの公演、12月には地域の演奏家などによる『まちの音楽会』を行いました。特に1989年の第4回まちの音楽会はミュージカル「サウンド オブ ミュージック」を上演しました。大道具、小道具、そして出演者の衣装も、さらに背景となったアルプスの山々は、地域に住む画家の方と一緒にスタッフが絵筆を握り作り上げました。

まちの教室は、港北ニュータウンの自然に親しむジグザグ散歩や、遺跡発掘の現場見学会、昔話とは何か一語りの会シリーズなどたくさんの文化活動を行いました。そして、1994年12月都筑区誕生記念 劇団たんぽぽによる「ルドルフとイッパイアッテナ」の上演をもって8年間の活動を終えることとなりました。

その後、私はかしの木台ハイツの民生委員・児童委員をさせていただく事になりました。

民生委員は、地域の皆さんと福祉に関わる関係機関との「つなぎ役」という大きな役割があります。

さらに、高齢者の方々の見守り訪問やそなえちゃんカードの更新、荏田南社会福祉協議会のシニアサロンやバスツアーに参加し、たくさんの方々の笑顔に触れ合う機会に恵まれました。

荏田南小学校で行われる荏田南文化祭、毎月行われるほほえみ交流カフェ（認知症&予防カフェ）はこの3月で100回を迎え、地域の方々の大切な交わりの場となっています。

そして、参加しているお一人お一人が心豊かに過ごされている姿は、私自身のこれからの生活の大きな励みとなっています。

私は、本当に何もなかったこの土地で、たくさんの方と出合い、楽しい時間を過ごすことができました。

これからも、このまちの面白さを実感できるように、一日一日を大切にしていきたいと願っています。